| 科目名 | 家族関係論 | 講師 | 非常勤講師 |
|---|---|---|---|
| 履修時期 | 2年　前期 | 単位数 | 2 |
| | | 時間 | 30 |

＜科目設定理由＞

看護の対象である人間は、家族もしくはそれに相当する機能を持つ集団の中で成長・発達し、さまざまな社会集団に属しながら「一個人」としてのアイデンティティを確立する。人間が誕生し最初に属する集団は「家族」であり、「家族」は社会を構成する最小の集団といわれる。

地域包括ケアシステムの推進にあたっては、看護の対象の捉え方を「病院で療養する人」から「地域で暮らす人」へと大きく転換していかなくてはならない。この「地域で暮らす人」を捉えるうえで欠かすことのできないのが「家族」の存在である。現代社会は「家族」の概念も変化してきているため、「家族」を理解するためには「家族」を血縁だけとせず、家族システムを担う集団、発達する存在としての集団と捉えることが重要であり、価値観としての家族、暮らしの場としての家族を多角的に理解する能力が求められる。また、現代の多様な家族形態や規範は公的・私的なさまざまな問題を生じさせる要因となることを理解する必要がある。

そこで、ここでは現代の家族の特徴を知り家族を多角的に理解する能力と、家族に生ずる問題の本質を見極め家族レジリエンスを高めるための支援の基礎的知識を得ることをねらいとして科目を設定する。

そして、ここでの学習が家族の構成員となる個々人の多様な価値観を尊重し、多様性への寛容さを育む基盤となることを期待する。

| | |
|---|---|
| 学習目標 | 家族社会学、家族心理学、家族関係学の知見を学び、家族および家族関係についての理解を深めるとともに、家族看護の実践に向けて家族に関する知識を自ら身につけていくことができる力の獲得を目指す。 ➔「家族」を理解するために3つの理論を学ぶ。①家族システム理論　②家族発達理論　③家族ストレス　対処理論 |
| 学習内容 | ①家族とは<br>②「近代家族」<br>③家族の発達　（家族発達理論）<br>④パートナーの選択<br>⑤パートナーシップの多様化<br>⑥子育て<br>⑦ワーク・ライフ・バランス<br>⑧家族内暴力<br>⑨家族の多様化<br>⑩高齢期と家族<br>⑪家族間介護<br>⑫家族システム理論・家族構造・家族ストレス対処理論<br>⑬家族療法<br>⑭家族アセスメント<br>⑮まとめ：家族のゆくえ |
| 授業形態 | 講義及び演習（グループ学習） |
| 評価方法および評価の観点 | 試験及び授業態度による |
| テキスト | 南江堂　家族看護学　改訂第3版 |
| 参考資料・図書 | 長津美代子・小澤千穂子『新しい家族関係学』健帛社、2014年.<br>岩間暁子・大和礼子・田間泰子『問いからはじめる家族社会学」有斐閣ストゥディア、2015年.<br>中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・武藤清子編『家族心理学〔第2版〕」有斐閣、2019年.<br>鈴木和子・渡辺裕子『家族看護学』（第4版）日本看護協会出版会、2012年 |
| 履修上の留意事項・受講条件 | 特になし |